



電子情報通信学会

会長就任にあたって

～“Connecting X”で新たな価値を創造しよう～

2026年6月4日

辻ゆかり



# 本日、お話ししたいこと

1. 自己紹介
2. 我々を取り巻く環境変化
3. 学会の価値って何だろう？！



# 本日、お話ししたいこと

1. 自己紹介
2. 我々を取り巻く環境変化
3. 学会の価値って何だろう？！



# 自己紹介： 辻（つじ） ゆかり



出身地： 静岡県静岡市

趣味： ゴルフ、読書、熱気球\*

(\*:最近は飛べてませんが。。)

好きな言葉：而今

(好きな日本酒も而今)

**1989年 NTT入社 通信網総合研究所（網設計）**

**その後、法人営業開発部（ATMスイッチ開発）、  
サービス開発・プロデュース（ITS等）、  
人材育成担当、留学、を経験**

**2014年 NTT西日本 研究開発センタ 所長**

**2016年 NTTネットワーク基盤技術研究所 所長**

**2019年 NTT-AT IOWN推進室 室長**

**2022年 NTT-AT IOWNイノベーション事業本部 本部長**

**2023年6月より**

**NTT 研究開発担当役員 情報ネットワーク総合研究所長（現職）**

**※ IOWN（アイオン）：Innovative Optical and Wireless Network**

IEICE Confidential

- 日本学術会議 (2006-2017)
- 文科省 (2007-2019) :
  - 科学技術学術審議会、学術情報委員会、情報科学技術委員会
- 科学技術振興機構 (JST) :
  - CREST「信頼されるAI」の領域アドバイザー (2020-)
- 情報通信研究機構 (NICT) アドバイザリーコミッティ (2023-)
- 国立情報学研究所 (NII) 運営委員会 (2023-)
- 総務省 新世代モバイル通信システム委員会 (2023-)
- **電子情報通信学会**
  - **総務理事 (2016-2017)**
  - **通信ソサイエティ会長 (2021-2022)**
  - **次期会長～会長 (2025-2026)**

信学会100周年

コロナ直後

第103代

# ガラスの天井？



**そんなもの気にする暇なんてない！**



経営不振や不正などにより組織が危機的状況のときほど、女性がCEOなどのトップの地位に置かれやすいという概念

**崖っぷち、上等！**



Help me !



約2.3万人の知の集積 =>

**まわりの協力をあおげばよし！**



# 本日、お話ししたいこと

1. 自己紹介
2. **我々を取り巻く環境変化**
3. 学会の価値って何だろう？！

# 100年間は「通信＝電話」だった。。



1890



## 電話網の歴史は「収容数の増大対応」と「装置の小型化」

### 初期

手動交換機  
(1890年導入)



### 機械化

ステップバイ  
ステップ交換機  
(1926年導入)



### ソフトウェア化

電子交換機  
(1972年導入)



### IP化

Type1 CA  
(2003年導入)



NGN  
(2008年導入)

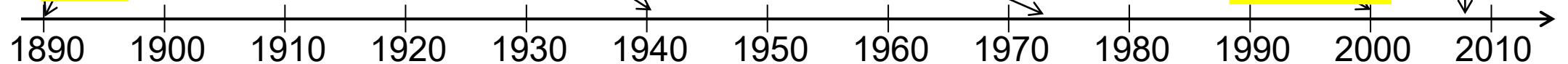


加入者数

197

155万

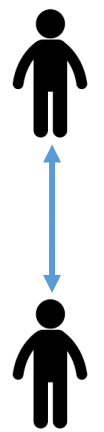
6000万



# コミュニケーション技術は加速度的に進化



1890



インターネット

1990s~

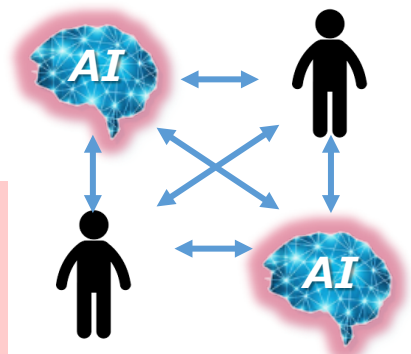
ベストエフォートのパケット通信

- ・スマホ：個人の通信量 ↗
- ・IoT：接続端末数 ↗
- ・クラウド：データ処理量 ↗



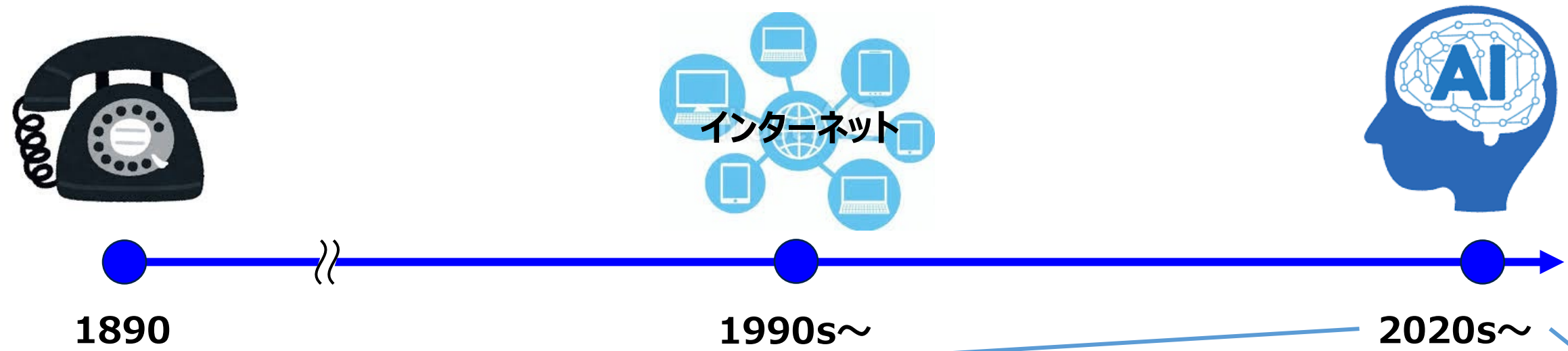
2020s~

社会全体でAI活用



**◆ AI時代の情報社会基盤の実現**  
(ネットワーク、セキュリティ、電力消費)

# 環境変化その1 : AI本格化でクロックスピードUP!



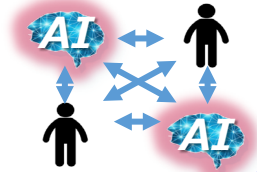
**Speed up!!**

**研究→開発→社会実装の**

- ・アジャイル化
- ・複合ジャンル化

## 人が介在する通信→AI-AI／AI-人が混在する通信へ

多くの社会システムがネットワークで相互につながり、AIの処理スピードで動く世界



## 莫大なデータが草の根的に発生し、かつ、 AIによるハルシネーションも起こり得る

技術（データの信頼性やセキュリティをどう担保するか） + 倫理・法制度・経済安全保障等の観点で対応



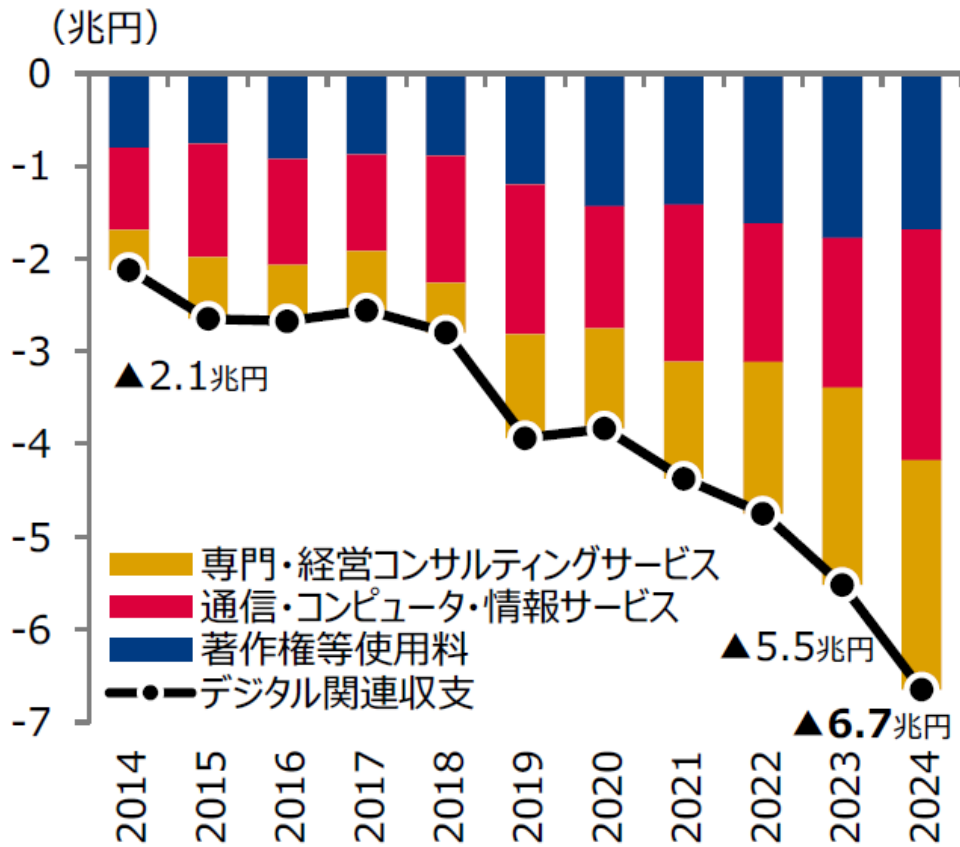
## 利便性とサステナビリティの両立

AIを支えるデータセンターには、広大な土地、大量の電力、水（冷却用）が必要



# 環境変化その2：進む「デジタル赤字」

• デジタルサービスの海外への支払いで膨らむ「デジタル赤字」、10年前の3倍に



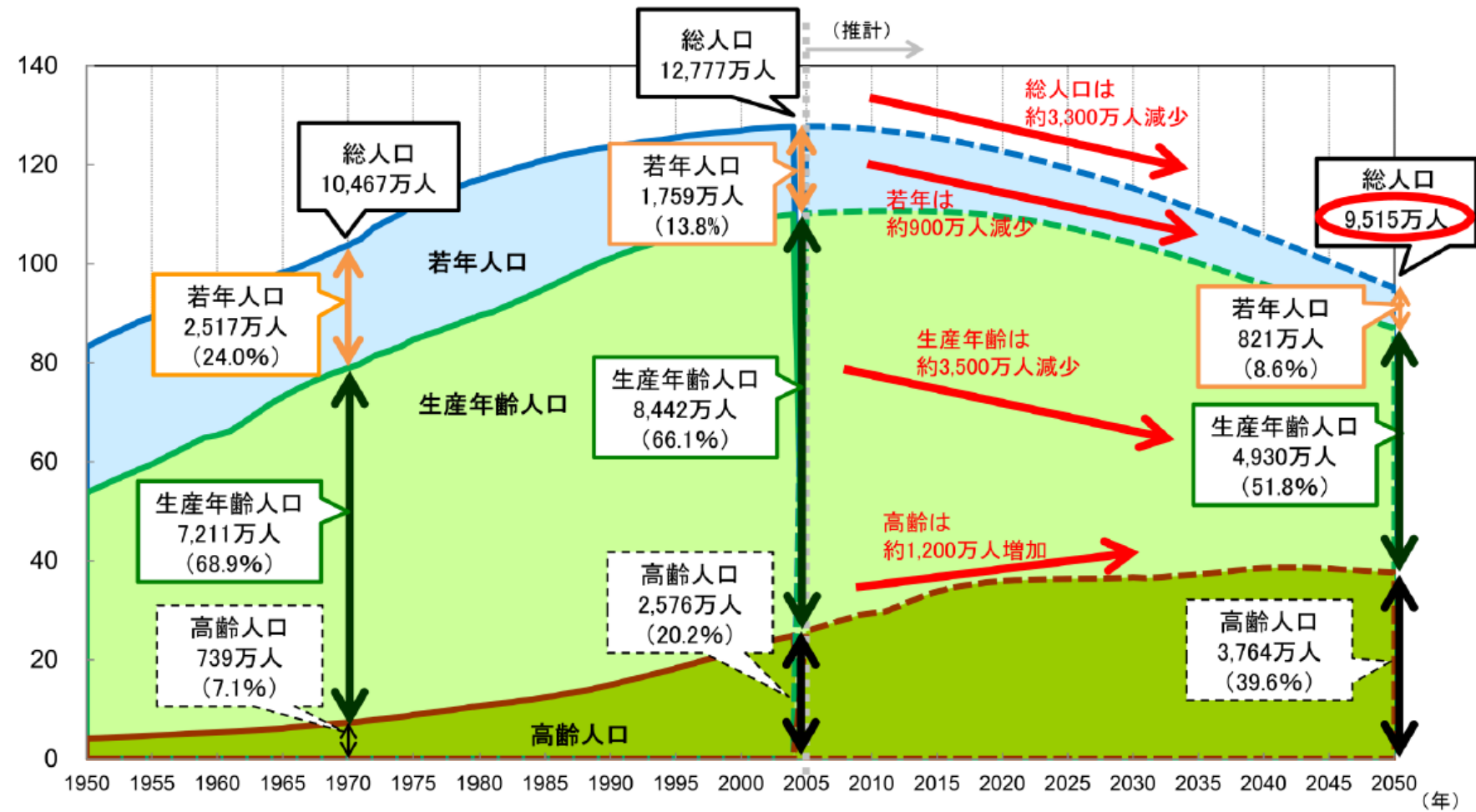
項目	説明
著作権等使用料	<ul style="list-style-type: none"> <li>OSやアプリケーションのライセンス料</li> <li>放映権料 等</li> </ul>
通信・コンピュータ・情報サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウド</li> <li>ソフトウェアの委託開発</li> <li>データセンター</li> </ul>
専門・経営コンサルティングサービス	

**赤字解消 & 日本競争力強化!**

出典：財務省・日本銀行「国際収支統計」、日本銀行資料等より三菱総合研究所作成

# 環境変化その3：日本の人口推移①

高齢人口増加に対し、生産年齢・若年人口は減少。結果、高齢化率は40%に上昇

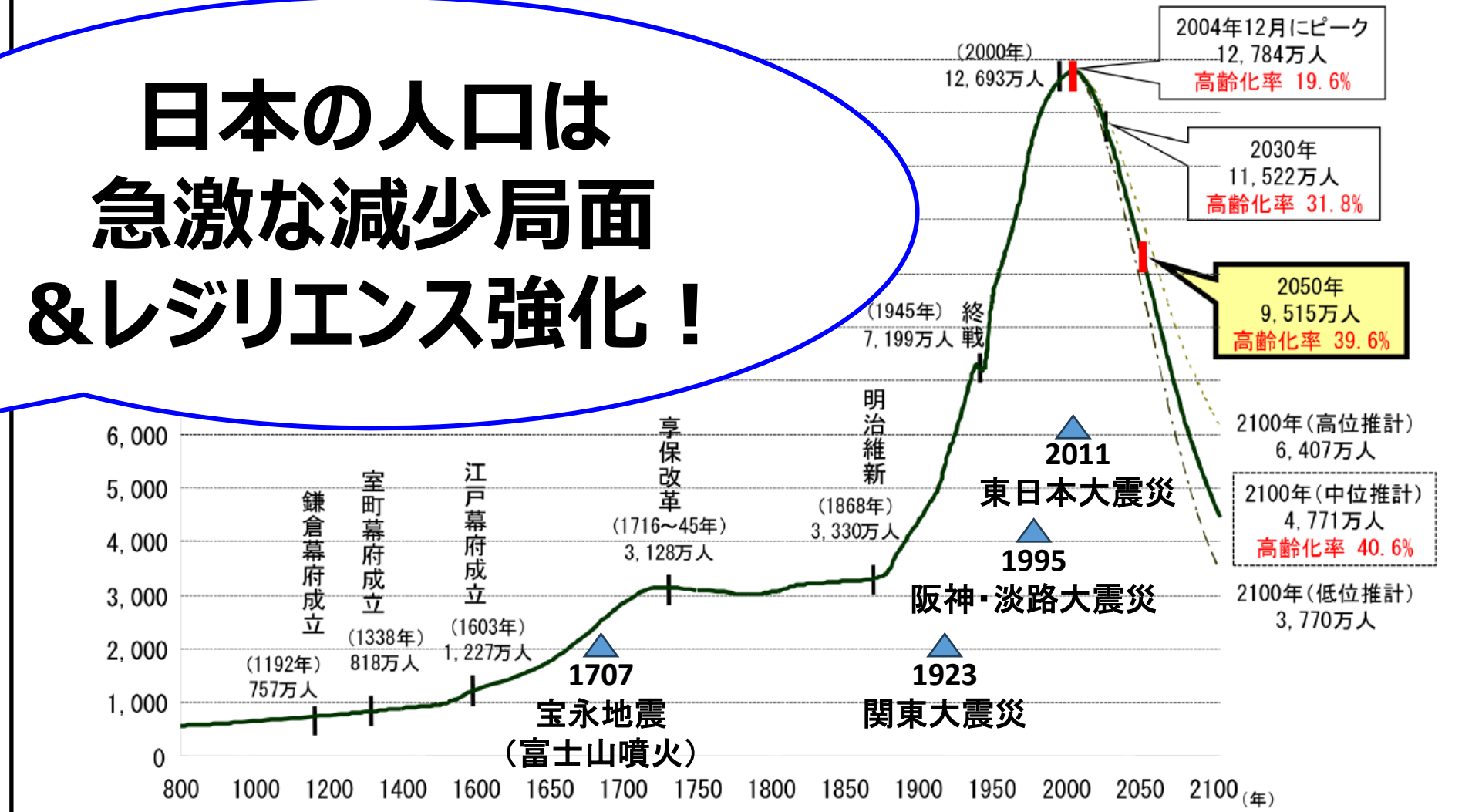


(注1) 「生産年齢人口」は15～64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口  
 (注2) ( ) 内は若年人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合

(注3) 2005年は、年齢不詳の人口を各歳別に按分して含めている  
 (注4) 1950～1969、1971年は沖縄を含まない

- 日本の人口は2004年をピークに今後100年間で100年前（明治後半）の水準に

**日本の人口は  
急激な減少局面  
&レジリエンス強化！**



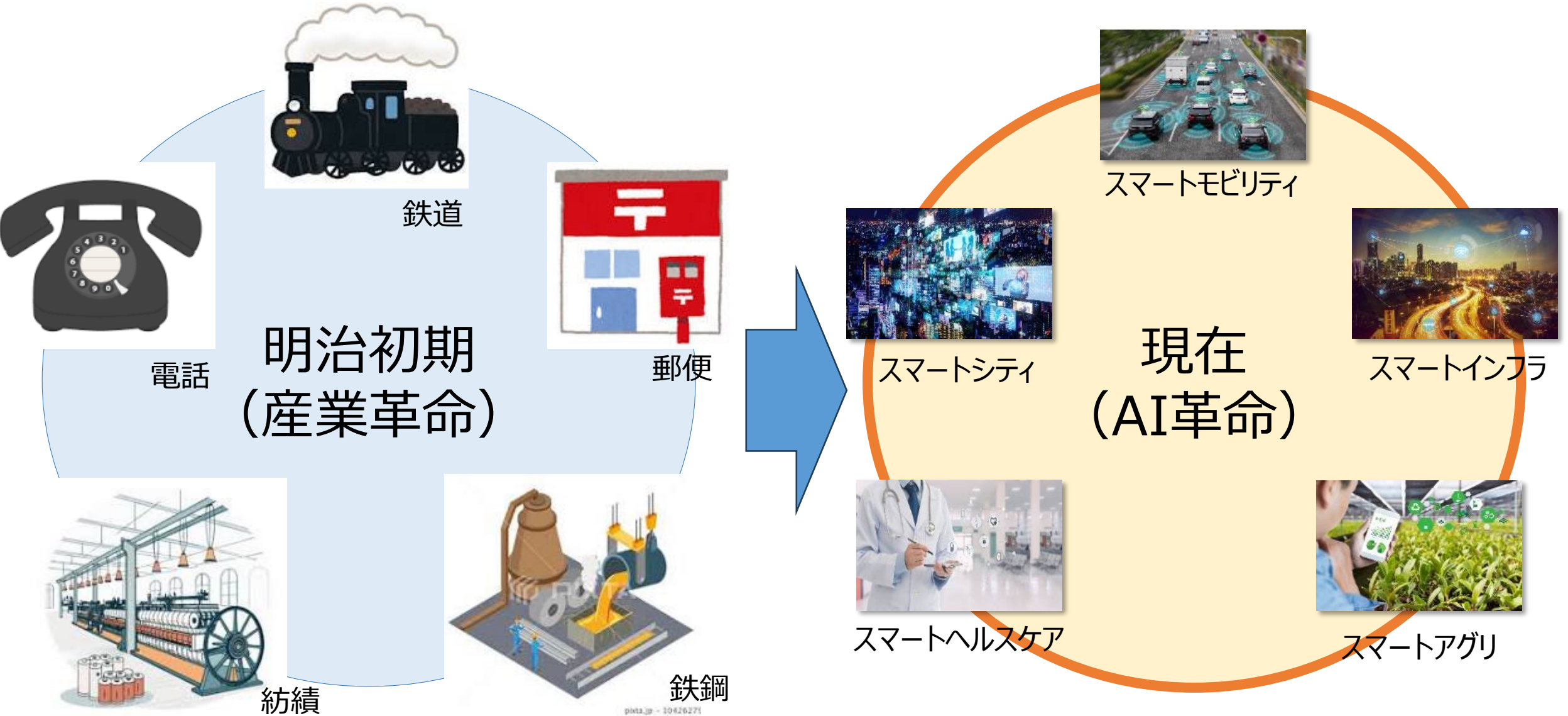
出典：「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

研究→開発→社会実装の  
アジャイル化/複合ジャンル化

デジタル赤字解消  
&日本の競争力強化

日本の人口推移  
&レジリエンス強化

# 我々は大変革期に生きている！



- (1) イノベーションは境界領域で起こる
- (2) 社会課題の多くは  
特定技術のみで解けるものではない
- (3) AI時代の社会課題を解くには、  
技術のみならず、  
倫理、法制度、経済との関係が  
非常に重要である



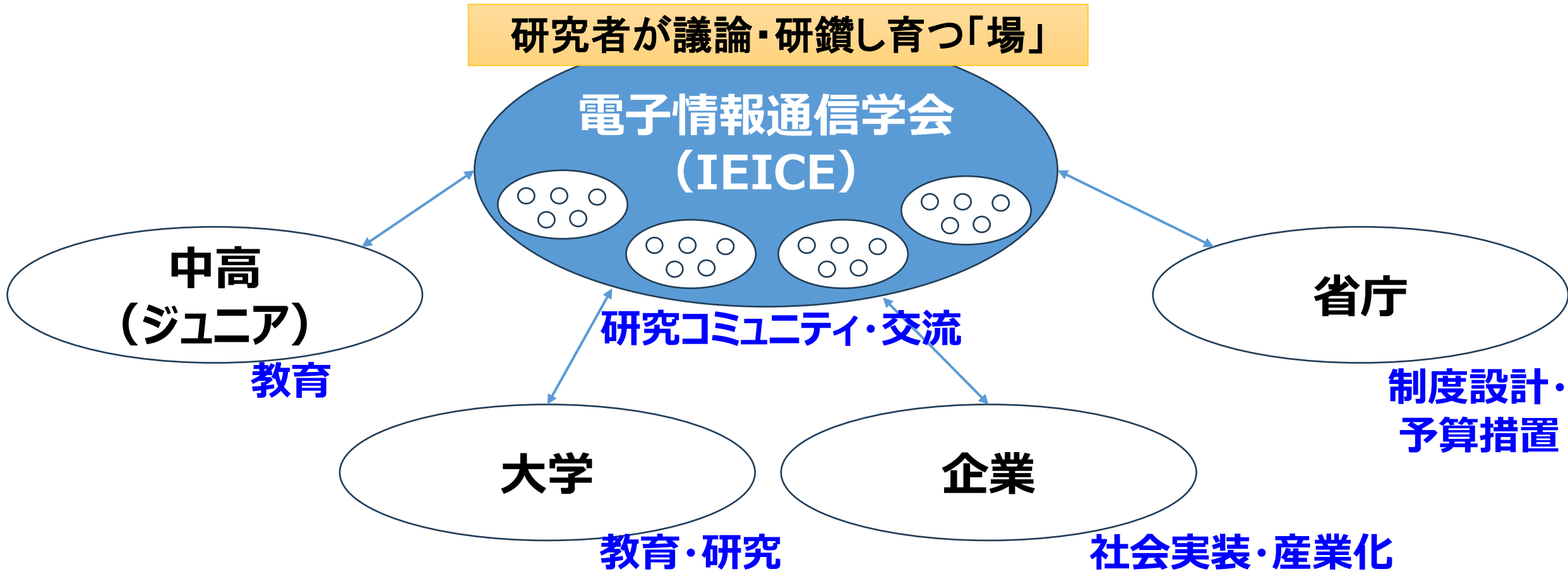


# 本日、お話ししたいこと

1. 自己紹介
2. 我々を取り巻く環境変化
3. **学会の価値って何だろう？！**

# 本会の立ち位置 (Now)

- 個々の研究コミュニティで、草の根的に、研究の発表・交流の場を提供



# 本会の立ち位置 (Near Future)

- 関連学会と協力し、複合ジャンルの研究発表、教育・交流の場を提供

関連学協会群



中高  
(ジュニア)

省庁

ジュニア・学生  
へのアプローチ  
(理系教育、挑戦)

企業との  
マッチング  
(産学連携、就職)

省庁への  
働きかけ  
(技術動向、提言)

連携	学会名	会員数
電気・情報関連5学会	<b>電子情報通信学会</b>	23000人
	電気学会	18000人
	情報処理学会	20000人
	映像情報メディア学会	5000-7000人
	照明学会	2000-3000人
その他の連携	機械学会	30000人
	：	：

分野横断かつ中立的立場で“つなぐ”ことができるのが学会の強み！

**Intelligence (知性)**

**X = Human (人)**

**Community (学会)**

# “Connecting X”で新たな価値を生み出そう！

**ジュニア・学生  
へのアプローチ**  
(理系教育、挑戦)

**企業との  
マッチング**  
(産学連携、就職)

**省庁への  
働きかけ**  
(技術動向、提言)

- ◆ 個々の活動を見える化する
- ◆ 積極的に外部に発信する
- ◆ 同じ課題を持つ研究会 / Society / 学会を巻き込む



# まずはソサイエティ大会から（省庁＋学会連携）

タイトル：「どう進める？日本の科学技術イノベーション」

～府省庁と学会横断で探る第7期科学技術・イノベーション基本計画のこれから～」

日時・場所：2026年9月24日(木) 13:30-16:30、北海道大学 情報科学研究所棟A-12

## What

知の基盤としての  
科学の再興  
(新たな研究領域)

技術領域の  
戦略的重点化  
(17領域)

科学技術と  
国家安全保障と  
の有機的連携  
(技術、人材育成)

### 第7期 科学技術・ イノベーション 基本計画

イノベーション  
エコシステムの  
高度化  
(産学連携、地域)

戦略的  
科学技術外交  
の推進

推進体制・  
ガバナンスの  
改革

## How

省庁横断  
＋  
学会連携  
(信学会&電気学会)

• 本会の三本柱：グローバル化、ステータス向上、サステナブルな学会運営

① ソサイエティのフラグシップ国際会議

② 多言語翻訳プラットフォーム

③ GlobalNet Workshop (大会で留学生による英語ポスター)

④ 社会への問題提起と発信

➤ 2024：「大学・院生の教育機会を尊重した求人スタイルへの移行」

➤ 2025：「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」

⑤ 2025：「情報通信エンジニアリング部門」を新設

⑥ 新規選奨「未来60年賞」による学会活性化

グローバル化

ステータス向上

# 『未来60年賞』始めました！

- 未来を切り拓く独創的な研究を顕彰・支援する新たな賞として「**未来60年賞**」を創設
- 本賞は、篤志家のご寄付を原資として運営され、**次世代の研究者が長期的視野を持って、社会課題に挑むための土壌を育てる**ことを目的とする。
- 未来60年賞は、単なる「表彰」にとどまらず、**人が育ち、知がつながり、未来を共に創る場**として、以下の三つの柱で構成される。

## 1. 未来60年賞チャレンジコンテスト

書類審査（一次審査）→プレゼン@総合大会（二次／最終審査）

## 2. 未来60年ビジョン会議

## 3. 未来60年アラムナイ（同窓会）

一般社団法人 電子情報通信学会

## 第1回未来60年賞 チャレンジコンテスト 始まります！

電子情報通信学会は、独創的で未来志向の研究を顕彰・支援する「未来60年賞」を創設しました。本賞は、36歳未満の若手研究者・技術者を対象に、長期的な視野で社会課題の解決に挑む研究提案を募集します。応募いただいた提案は、書類審査により、8件に絞りられます。その後、2026年3月に九州産業大学で開催される総合大会における最終審査では、応募者の発表も含めて審査され、優れた提案は「未来60年賞」として顕彰されます。

受賞者には、賞金が授与されるほか、今後、著名な研究者や企業幹部と未来の研究や社会のあり方を語り合う場として「未来60年ビジョン会議」への参加機会が提供される予定です。さらに、歴代受賞者の交流の場として「未来60年賞アラムナイの集い」の開催も構想しています。本コンテストの特徴は、一度の表彰で終わらせず、未来に向けて互いの成長を支え合い、受賞者同士の人的・知的ネットワークを持続的に発展させていく点にあります。皆さまの挑戦を心よりお待ちしております。

**応募内容：**  
未来60年の情報通信を支える、独創的なアイデアや企画

**応募条件（抜粋）：**

- ・総合大会の開催年度の12月31日時点で36歳未満であること
- ・当会の正員または学生会員であること
- ・最終審査対象者に選出された場合、九州産業大学にて開催される総合大会にて発表できること（発表日：2026年3月10日（火））
- ・オリジナルの著作やアイデアであること

**応募方法：**  
お申込みにあたっては、未来60年賞のホームページをご確認ください。なお、応募期間は、10月中旬から12月中旬を予定しております。

**賞金および表彰式について：**  
未来60年賞：300万円 優秀賞：50万円 敢闘賞：25万円 奨励賞：5万円×5名  
表彰式は、2026年5月20日（水）に都内にて開催予定

問合せ先：電子情報通信学会未来60年賞事務局：mirai60@ml.ieice.org  
未来60年賞HP：https://www.ieice.org/jpn\_r/awards/mirai60/index.html

## このチャレンジは あなたが輝く時かも！

**スケジュール：**  
 2025年12月10日（水）：応募締切  
 2026年1月下旬：ファイナリスト発表（8名）  
 2026年3月10日（火）：総合大会でプレゼンテーション（最終審査）  
 2026年3月11日（水）：総合大会プレナリーセッションで受賞者発表  
 2026年5月20日（水）：未来60年ビジョン会議&受賞祝賀会（都内開催予定）

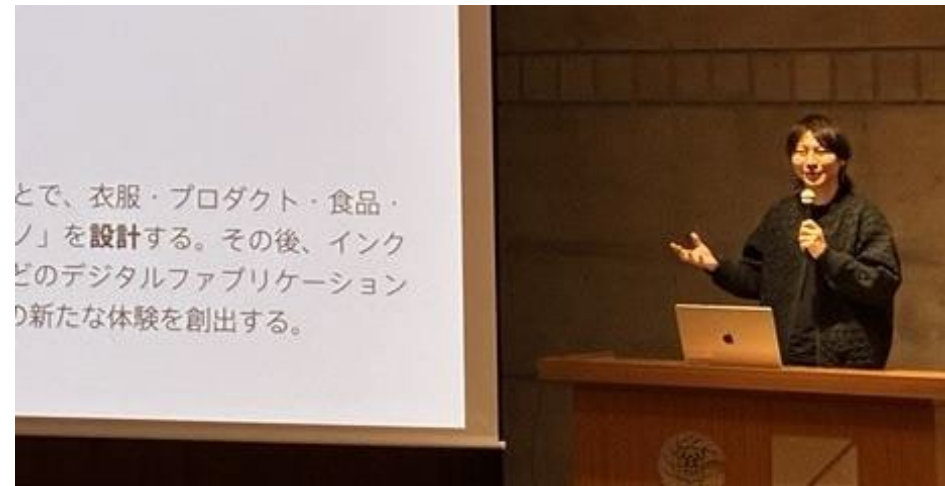
### 未来60年賞審査委員会

<p>委員長 天野 浩</p> <p>大竹 尚登</p> <p>岡野原 大輔</p> <p>木下 真吾</p> <p>笹瀬 巖</p> <p>永妻 忠夫</p> <p>岡下 直晃</p> <p>益 一哉</p> <p>森川 博之</p> <p>植松 友彦</p> <p>辻 ゆかり</p> <p>山中 直明</p>	<p>名古屋大学</p> <p>東京科学大学</p> <p>プリファードネットワークス</p> <p>NTT</p> <p>慶應義塾大学</p> <p>東京大学</p> <p>ブイキューブ</p> <p>産業技術総合研究所</p> <p>東京大学</p> <p>電子情報通信学会会長</p> <p>未来60年賞委員会委員長</p> <p>未来60年賞委員会副委員長</p>
---	--

[https://www.ieice.org/jpn\\_r/awards/mirai60/](https://www.ieice.org/jpn_r/awards/mirai60/)にアクセスして、  
 企画提案シートをダウンロードしてください。  
 必要事項を記入の上、未来60年賞HPから応募下さい。  
 たくさんのご応募をお待ちしております。



**未来60年賞：東京科学大 山崎雄大さん**



**敢闘賞：慶応義塾大 鳴海紘也さん**



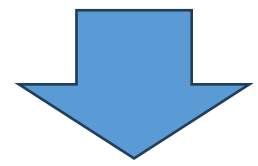
**優秀賞：NTT 井上飛鳥さん**



**審査員＋受賞者**

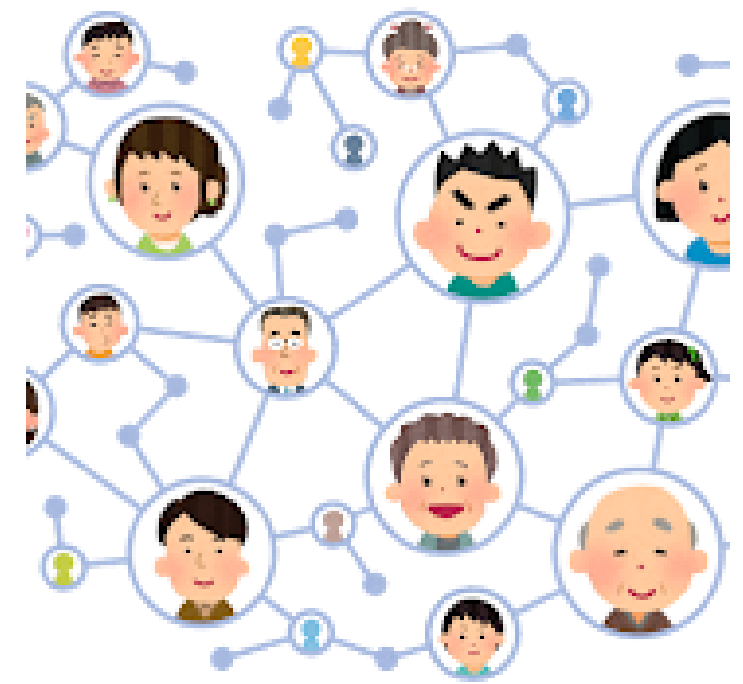
## 現状：草の根的に多くの施策を実行

- 様々な活動内容・やり方が個別最適。



## 目指す姿：研究や施策が有機的に相互影響

- 運用は効率的に。皆が楽しめる学会に！



# 電子情報通信学会をUpdateしよう！！



**ご清聴、ありがとうございました。**